

祇園祭ごみゼロ大作戦における パートナーシップ

特定非営利活動法人きょうとNPOセンター
内田香奈

祇園祭ごみゼロ大作戦の概要

本資料に使用した写真のうち、個別に記載のないものは、すべて一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦 提供による。

祇園祭ごみゼロ大作戦

- ・ 祇園祭のごみ減量を目指して2014年に始まったプロジェクト。
- ・ 例年7月15日と16日に実施。
- ・ NPOによる課題の認識から実践までに14年。
- ・ 行政施策化ではなく、民間の力による課題解決をめざす。
- ・ 屋台で提供される飲食に「リユース食器」を導入。
- ・ リユース食器の回収とごみ分別を呼びかける「エコステーション」を会場内に約50ヶ所設置。
- ・ ボランティア・スタッフ 例年10代から80代まで2日間でのべ2,200人が参加。



祇園祭ごみゼロ大作戦までの動き

年	主な出来事	関連する出来事
2001年	京のアジェンダ21Fのワーキンググループとして「エコまつりWG」が設置される。	
2005年	エコまつりWGでのリユース食器の調査研究・導入実験を経て、NPO法人地域環境デザイン研究所ecotoneにより「環境対策支援便」として事業化。	
2006年		「美しい祇園祭をつくる会」が活動を開始。
2010年	「京都市エコイベント要綱」制定、「京都市認定エコイベント登録制度」もスタート（エコトーンと京都市ごみ減量推進課の協働により）	
2011年	京都市「リユース食器利用促進助成制度」がスタート	
2011年～2013年	祇園祭にてリユース食器を使う「エコ屋台」をモデル実施。	2013年の「エコ屋台」実施時に、京都環境事業協働組合の理事長と出会う。

祇園祭ごみゼロ大作戦 これまでの実績

西暦	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	
取組年数	取組開始前	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	
資源物	1,550	8,130	3,140	4,660	3,490	3,750	kg
もやすごみ	55,780	34,430	25,340	47,420	49,450	33,990	kg
全体の廃棄物量	57,330	42,560	28,480	52,080	52,940	37,740	kg
来場者数	500,000	620,000	335,000	550,000	510,000	418,000	人
1人あたりのごみ量	114.7	68.6	85.0	94.7	103.8	90.3	g
1人あたりのもやすごみ量	111.6	55.5	75.6	86.2	97.0	81.3	g
資源化率（対2013年比）		5.2	2.0	3.0	2.3	2.4	倍
不燃ごみ				9,340	6,740	7,760	kg
段ボール				2,100	3,040		kg

リユース食器導入量	215,000	165,320	216,000	199,200	176,200	個・枚
リユース食器紛失・破損	45,152	13,867	10,721	9,818	8,281	個・枚
リユース食器紛失・破損率	21.0	8.4	5.0	4.9	4.7	%
リユース食器導入店舗数	212	196	228	202	142	店舗
リユース食器導入店数（露店以外）					30	店舗

*ごみ全体のうち、露店商から出るごみは全体の4割。残りは地域の飲食店から。
(2014年ごみゼロ調査より)

2018年、2019年のごみ減量のための新しい動き

- 箸・串のリサイクル 2018年～
(協力：森の力京都株式会社)
木質ペレット製造のための燃料として回収。
- 給水所の設置 2019年～
(協力：水Doネットワーク)
祭エリア内に2か所の給水スポットを設置。
水道につないで、持参したボトルに無料で給水。
ペットボトル約1800本分の利用があった
- 地域飲食店等へのリユース食器の使用拡大
およびニーズ調査 2018年～
露店商だけでなく、地域の飲食店へのリユース食器の普及を試みる。
現在、無料での提供しているが、有料での利用拡大につなげるための調査を実施。



祇園祭ごみゼロ大作戦 運営体制と連携の広がり

祇園祭ごみゼロ大作戦 関係団体 (2014年～2019年)



プロジェクト開始（2014年）当時の実行体制

実行委員会 構成団体	団体名・機関名・企業名	概要	2017年 法人化時の 動向
NPO	(特活) 地域環境デザイン研究所 ecotone	このプロジェクトを主導している団体。リユース食器の開発、普及に取り組んできた。	役員
	京のアジェンダ21フォーラム	京都市におけるローカルアジェンダの推進団体。リユース食器事業の立ち上げを支援。	役員
	美しい祇園祭をつくる会	本プロジェクト以前から、祇園祭でのごみ拾い活動を展開してきた。拡大する活動への負担感が増していた。ボランティア、各種資源、ネットワークをごみゼロ大作戦に引き継ぐ。	-
	(特活) 京都地球温暖化防止府民会議	京都府地球温暖化防止活動推進センターを運営。	-
	(特活) きょうとNPOセンター	中間支援組織。ボランティア・コーディネートを担当	役員
	行政 京都市 ごみ減量推進課	イベントごみ減量の取組みにおいて、エコトーンとの協働経験は長い。	顧問
企業	京都環境事業協働組合	京都市の廃棄物処理の許可事業者の許可による組合。ごみ減量の流れのなか、事業存続への危機感。	役員
	五条露店商組合	祇園祭の宵山期間中に出品する露店を束ねる組合。他地域での事故の影響から社会的理解を得る必要性を感じて。	-

協力：公益財団法人京都地域創造基金、株式会社グリーンアップル

9

活動を構成する機関や団体の変化（中核的なかわりの団体）

	萌芽期1 (2001年～2007年)	萌芽期2 (2008年～2013年)	実践期1 (2014年～2017年)	実践期2 (2018年～)
	パートナーシップ型組織でのインキュベーター期	NPOと行政の二者間のパートナーシップ期	NPO・行政・企業の各セクターから複数の主体が関わる多者間のパートナーシップ期	
主な成果	「リユース食器」というツールと利用システムの開発	「リユース食器」の普及、認知度向上	祇園祭ごみゼロ大作戦 祇園祭のごみ減量活動を開始し、ごみ減量を促進	
セクター	NPO	NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone(エコトーン)	NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone	NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone
		京のアジェンダ21フォーラム	-	京のアジェンダ21フォーラム
		-	-	NPO法人きょうとNPOセンター
		-	-	公財) 京都地域創造基金
		-	-	美しい祇園祭をつくる会
		-	-	NPO法人京都地球温暖化防止府民会議
	行政	京都市 地球温暖化対策室	京都市 ごみ減量推進課	京都市 ごみ減量推進課
		-	-	京都市 8局12課(室)
	企業	-	-	下京警察署・中京警察署・府警本部(2016年～)
		-	-	京都環境事業協同組合
主な資金源	補助金・助成金	補助金・リユース食器の利用料 他	補助金・助成金・寄付金・協賛金	補助金・助成金・寄付金・協賛金

12

祇園祭ごみゼロ大作戦に関わった京都市の部局（8局12課）

局	室・課	役割	協力年
環境政策局	循環型社会推進部 ごみ減量推進課	事業担当課。補助金交付、リユースごみ箱の貸出、庁内関係部局との連絡調整窓口、町内会等との調整協力。	2014年～
	循環型社会推進部 まち美化推進課	ごみ拾い用トンブ、拾い歩き用ごみ袋の貸出	2014年～
	地球温暖化対策室	京のアジェンダ21フォーラムとの事業連携。	2014年～
総合企画局	市長公室広報担当	市政掲示板への大作戦実施の啓発ポスターの掲示。	2015年～
文化市民局	文化芸術都市推進室 文化財保護課	文化財としての山鉾・祇園祭の保護等の観点から、山鉾連合会との関係が深い。実施に伴う連合会との関係づくりに協力。実行委員会ではオブザーバー。	2014年～
	地域自治推進室 市民活動支援担当	KNCが指定管理者として運営する京都市市民活動総合センターの所管課。大作戦におけるボランティア・コーディネート市民活動総合センターの業務範囲内に位置付けることに合意。	2017年～
産業観光局	観光MICE推進室	祇園祭山鉾マップにエコステーション配置図の掲載、広報誌への広告枠の提供、市内まちかど観光案内所への啓発ポスターの掲示調整など。実行委員会オブザーバー。	2014年～
都市計画局	歩くまち京都推進室	ボランティアTシャツへの協賛。	2015年
建設局		祭実施エリア内にあり、建て替えのため使用していなかったスペースを、ボランティア・スタッフの休憩所として利用許可。	2016年～2017年
交通局	企画総務部財務課	使用停止となっていた市営バス停車場を本プロジェクトの活動拠点として使用許可。	2014年～2015年
	営業推進室	地下鉄・市バスへの広告掲出。	2015年～
上下水道局	総務部総務課	ボランティア・スタッフ用飲料水の提供。	2015年

出典：内田香奈「パートナーシップの進化プロセス-祇園祭ごみゼロ大作戦を事例に」 龍谷大学大学院政策学研究第7号 2018

特徴的な連携（団体）の概要と関係性

団体名	団体概要	関係性・協力内容
公益財団法人 祇園祭山鉾連合会	山鉾町34町により構成される。広報など対外的な窓口。2017年より警備などの費用を集めるクラウドファンディングを実施。	実施回数を重ねるごとに、徐々に理解深まり、2018年からごみゼロ大作戦への寄付も。地域調整などでも協力を得ている。
祇園祭 クリーンキャンペーン	1990年から民間企業約40社の協賛により、ごみ対策として始まった。段ボール製のごみ箱を作って、祭エリア内に配置していた。	京都市「しまつのこころ条例」施行（2015年10月）により、段ボール製ごみ箱を作れなくなり、その分の費用を、スタッフTシャツの費用として協賛してくれるようになった。
下京警察署・中京警察署・京都府警	祇園祭では従来から雑踏警備などを担当。地域連携の考え方から2016年にごみゼロへの関与を深める。	2016年には、警察の費用にて広報にも協力。エコステーション立ち上げ時の安全確保、ボランティアスタッフの誘導など。
京都市（8局12課）		各部局の特性により、協力内容が異なる（次頁）。ごみ減量推進課を窓口にごみ減量推進課とコンタクトをとり、同課のサポートを受けながら、依頼や交渉はごみゼロで行った。

11

主体別の連携の要素（◎と○は役割の強さを表す）＊2019年現在

	団体名 （略称含む）	祇園祭ごみゼロ大作戦における連携の要素								
		ビジョン	お金	ノウハウ・スキル	ネットワーク	サービス	場所	人	広報・啓発	制度・規制
NPO	（特活）エコトーン	◎		◎	◎				○	
	京のアジェンダ21F	◎			◎				◎	
	美しい祇園祭をつくる会			◎	◎				○	
	（特活）きょうとNPOセンター	◎		◎	◎				○	
	（公財）京都地域創造基金		◎	◎					○	
	（公財）祇園祭山鉾連合会		○		◎				○	
	大学		○					◎	○	
	山鉾町エリア町内会など						○		○	
行政	京都市（ごみ減量推進課）		○		◎				◎	◎
	京都市（上記以外）		○				◎	○	◎	
	警察									◎
企業	京都環境事業協同組合		◎			◎	◎	◎	◎	
	五条露店商組合					◎			○	
	（株）グリーンアップル					◎				
	祭エリア内 飲食事業者					◎				
	その他企業		◎				◎	◎	○	

内田香奈「パートナーシップの進化プロセス-祇園祭ごみゼロ大作戦を事例に-」 龍谷大学大学院政策学研究第7号2018 を元に改変

セクター別にみた役割

セクター	役割	意味
NPO	①ビジョンを提示する。 ②課題解決に必要なツールやスキルの提供。 ③多様な参加や連携を作り出す	①連携団体や関係者間の目的を明確にする。 ②プロジェクトを遂行する（スキル・ノウハウを駆使）。 ③社会課題にふれ、当事者となる機会を作りだす。
行政	制度・規制による権限の発揮 京都市：リユースごみ箱の制作・貸出しまつどころ条例 警察：露店の出店調整、安全確保	事業者に対するごみの発生抑制や祇園祭および地域での活動のための環境整備。
企業	①企業として本来もつ機能を活用する（販売、運搬） ②プロジェクトの遂行・継続を資源力で支援する（ボランティア、寄付、協賛）	①ごみの発生抑制や減量を実行し、実質的なごみ削減を可能とする。 ②継続的な活動を可能とし課題解決への道のりを支える。